

日本版 ISA(NISA)が日本版 REIT(J-REIT)の様に政府目標を超える事を期待! そのNISAでどの様なものに投資されているか ~既存投資家(投信全体)、新規投資家(NISA向けファンド)、そして、つみたてNISA 適格投信の投信フロー~

三菱UFJ国際投信株式会社 商品マーケティング企画部 松尾 健治
窪田 真美

※三菱UFJ国際投信がお届けする、日本版ISAに関する情報を発信するコラムです。

日本版 ISA(NISA)が日本版 REIT(J-REIT)の様に政府目標を超える事を期待!

2019年9月26日に金融庁「NISA・ジュニアNISA口座の利用状況に関する調査結果(2019年6月末)」が公表された(URLは後述[参考ホームページ]①参照)。**口座数は約1342万口座と20歳以上人口(1億506万人~2019年4月)の12.5%、買付額(投資総額)は2014年の導入から17.2兆円となった。このペースでいけば2020年に22兆円となり、NISA創設前に政府が「日本再生戦略」で打ち出した目標の25兆円の9割近くが達成される見込み**(下記図表、2013年2月22日付日本版ISAの道 その4~URLは後述[参考ホームページ]①参照)。

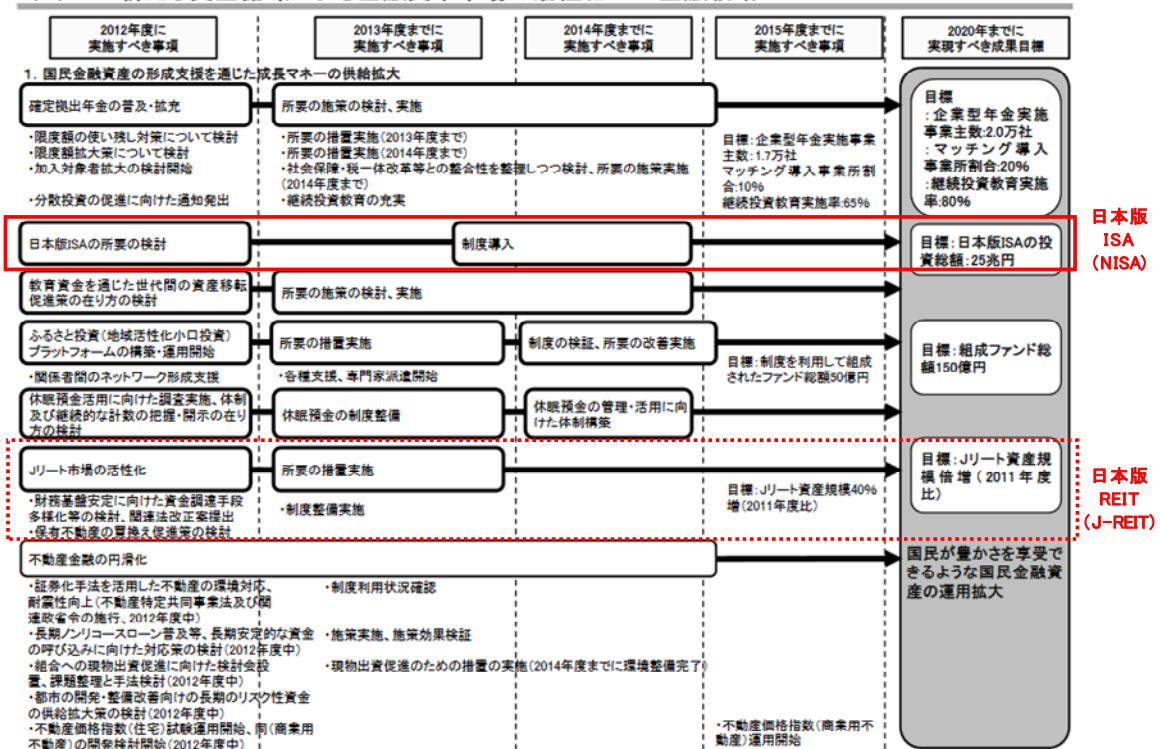
ただ、2012年当時、日本版REIT(J-REIT)の政府目標は「資産規模40%増(2011年度比)」だった(下記図表、2013年4月22日付日本版ISAの道 その9~URLは後述[参考ホームページ]①参照)。こちらは5年以上も前の2013年12月末に達成済みだ(2011年3月末8.2兆円→2013年12月末11.5兆円/40%増→2019年6月末19.3兆円/135%増~投資信託協会・統計データ「公募不動産投信の月末資産増減状況~URLは後述[参考ホームページ]①参照)。**日本版ISA(NISA)も2020年までに政府目標25兆円を超える事を期待している。**



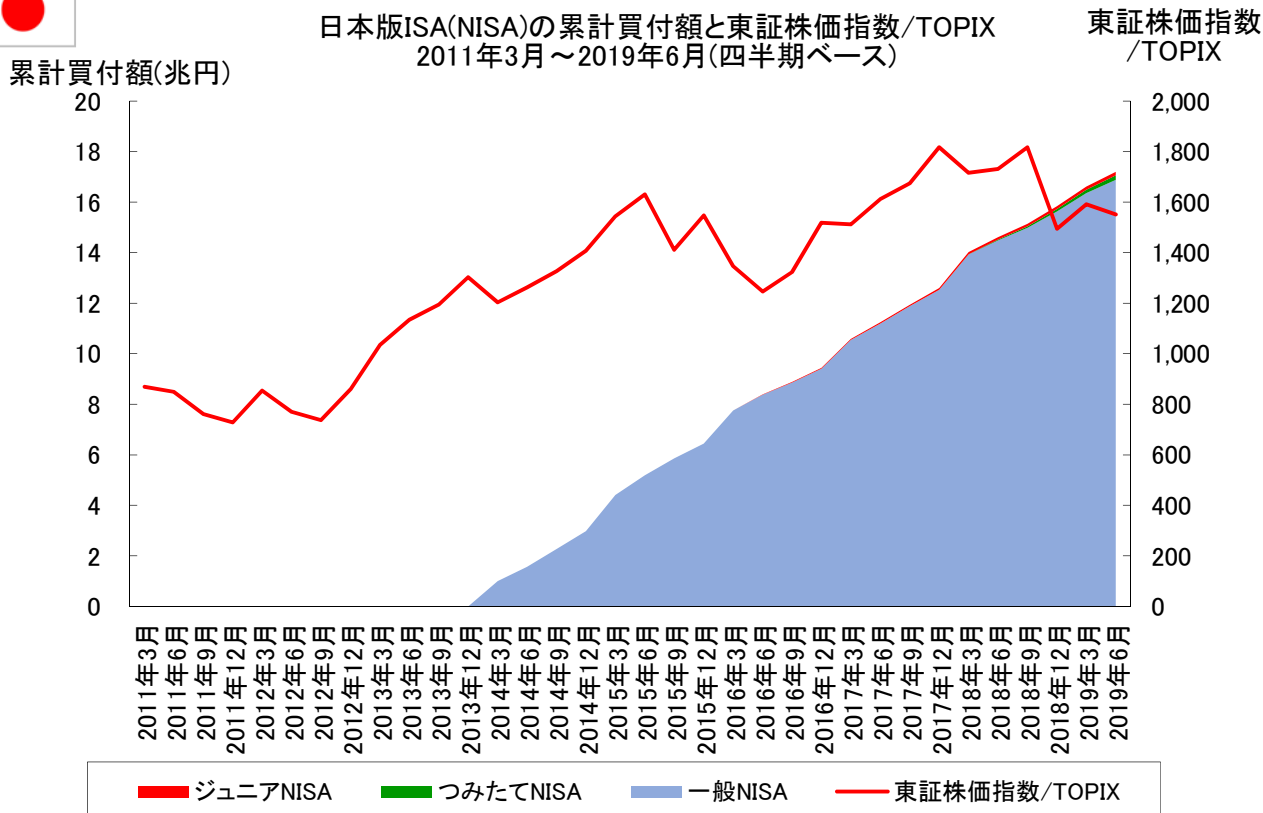
NISAの目標は2020年までに投資総額25兆円

2012年7月31日閣議決定

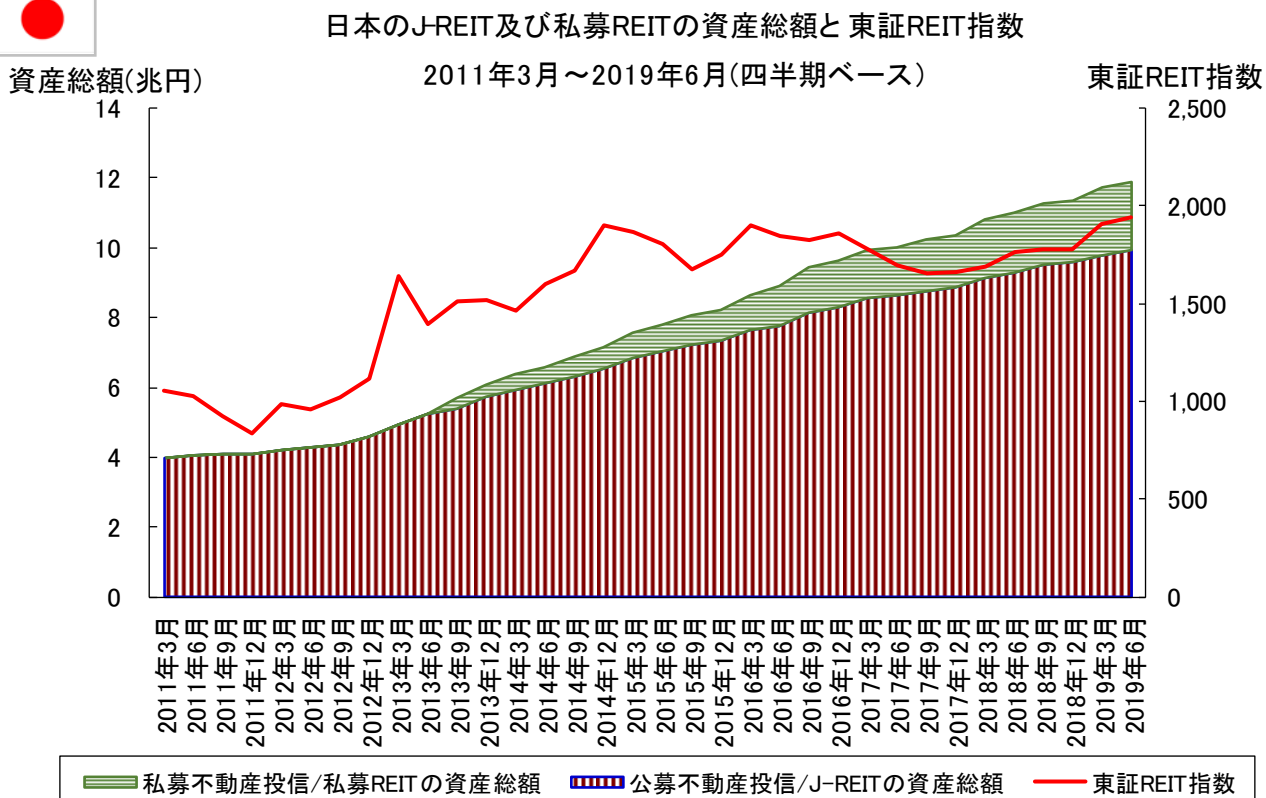
(1) III 新たな資金循環による金融資本市場の活性化 ~ 金融戦略 ~



(出所: 2012年7月31日閣議決定の「日本再生戦略」より三菱UFJ国際投信株式会社商品マーケティング企画部が作成)
 2013年2月22日付日本版ISAの道 その4「『日本版ISAの道』は、近い将来『日本版529と日本版ジュニアISAの道』につながり、さらに拡大していく可能性を持つ。
 『家計からの成長マネーの供給拡大』が達成されていくことを強く期待する。」(<https://www.am.mufg.jp/text/130222.pdf>) 等で紹介。



(出所: 金融庁とBloombergより三菱UFJ国際投信株式会社商品マーケティング企画部が作成)



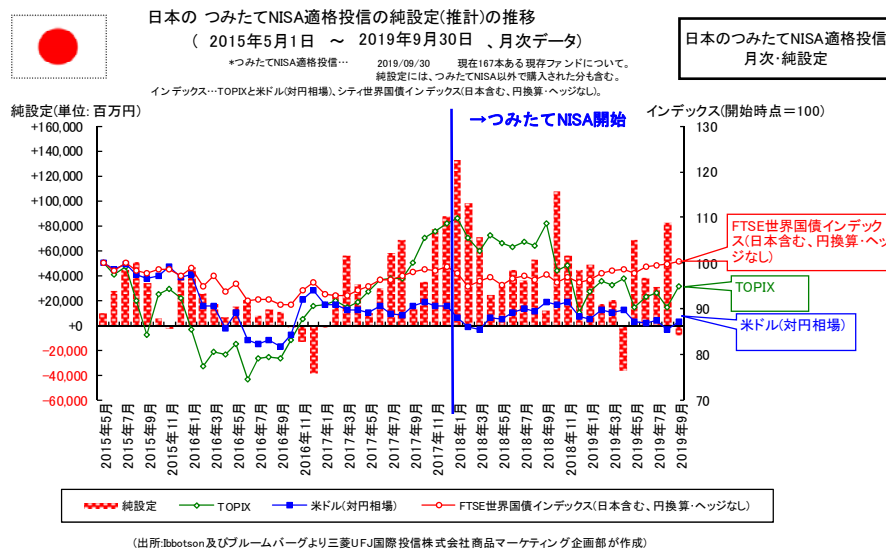
(出所: 投資信託協会とBloombergより三菱UFJ国際投信株式会社商品マーケティング企画部が作成)

日本のNISAでどの様なものに投資されてきたか ～9月の人気はグローバル株とアセットアロケーション!～

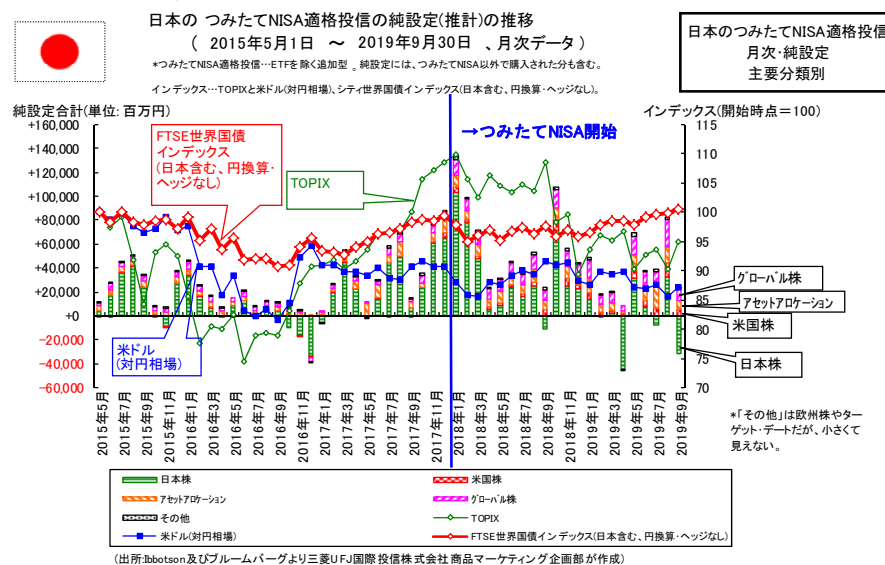
NISAでどの様な投資が行われてきたかを見る。NISAでの投資でその半数近くを占めている投信の最新動向は、今後のNISA投資家に有用なものになると思われる。

< NISAの投信フロー～つみたてNISA投資家(つみたてNISA適格投信)はグローバル株やアセットアロケーション～>

最初に、つみたてNISA投資家(つみたてNISA適格投信)の純設定を見る(*つみたてNISA適格投信なので、つみたてNISA以外で購入された分も含む、ETFを除く～つみたてNISA適格投信については後述[参考ホームページ]②参照)。純設定は、最新2019年9月に-85億円と8月(+826億円)から5カ月ぶり純流出となった。



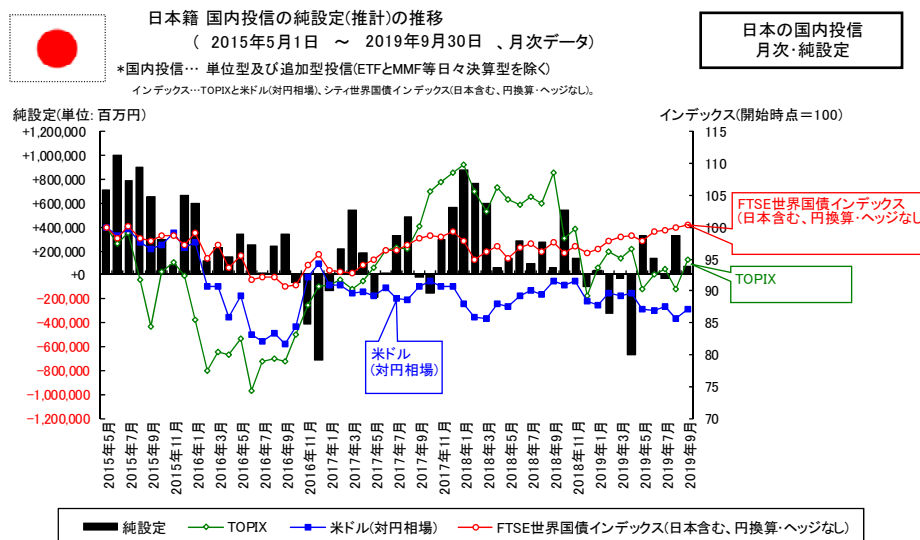
このつみたてNISA投資家(つみたてNISA適格投信)を投資対象別で見よう。最新2019年9月の純設定1位はグローバル大型株(7月から2カ月連続2位)、2位はアロケーション積極型(前月8月4位)、3位は米国大型ブレンド株(前月8月も3位)、4位はアロケーション慎重型(前月8月6位)、5位はエマージング株(前月8月も5位)だった。下記グラフは主要分類にまとめたもの。



日本株は2カ月ぶりの純流出で、今年4月以来の大きな純流出となった。日経平均株価は2019年9月に前月比+5.1%と4月(+4.97%)を上回り、2019年で最大の上昇幅となった(前月8月-3.8%)。

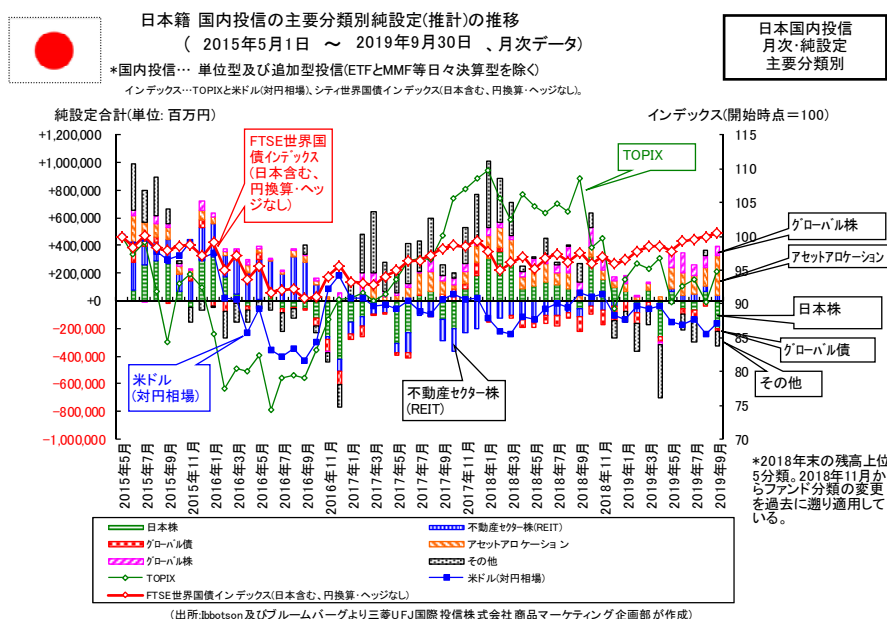
<NISAの投信フロー～既存投資家(投信全体)はアセットアロケーションやグローバル株～>

次に、投資家を「既存投資家」と「新規投資家」に分けて見る。これは日本証券業協会が「NISAを利用する層としては、投資経験及び投資資金ともに豊富で比較的年齢の高い層だけでなく、投資経験が浅くまた投資資金が少ない若年層まで幅広く考えられる。」(URLは後述[参考ホームページ]②参照)と言っている事も参考としている。前者の「既存投資家」は投信全体のフローで代替、後者の「新規投資家」は「NISA向けファンド」(後述※2参照)で代替して推測する。既存投資家を示す投信全体の純設定(推計)は、最新2019年9月は+752億円と8月(+3261億円)から鈍化も2カ月連続の純流入となった(←7月-314億円←6月+1402億円←5月+3300億円)。



(出所:ブルームバーグ、Ibbotsonより三菱UFJ国際投信株式会社商品マーケティング企画部が作成)

投資対象(主要分類)別で見ると、最新2019年9月に最も純設定の大きかったのはアセット・アロケーション債重視型(前月8月4位)、2位アセット・アロケーションその他(8月3位)、3位グローバル大型株(8月まで4カ月連続1位)、4位アセットアロケーション柔軟型(8月12位)、5位公益セクター株(8月6位)だった(グラフは投資対象/主要分類に分けて見たもの～後述※1)。アセットアロケーション全体では9月は+2862億円と過去4年半で最大の純流入があった。日本株は、2カ月ぶりの純流出となり、2019年4月(-2526億円)以来の大きな純流出となった。グローバル株は9月に+663億円と、8月(+820億円)を下回り、鈍化傾向。グローバル株の新規設定が9月は1本(医薬品セクター)と、減少傾向が続いている(8月1本←7月3本←6月6本←5月5本)。

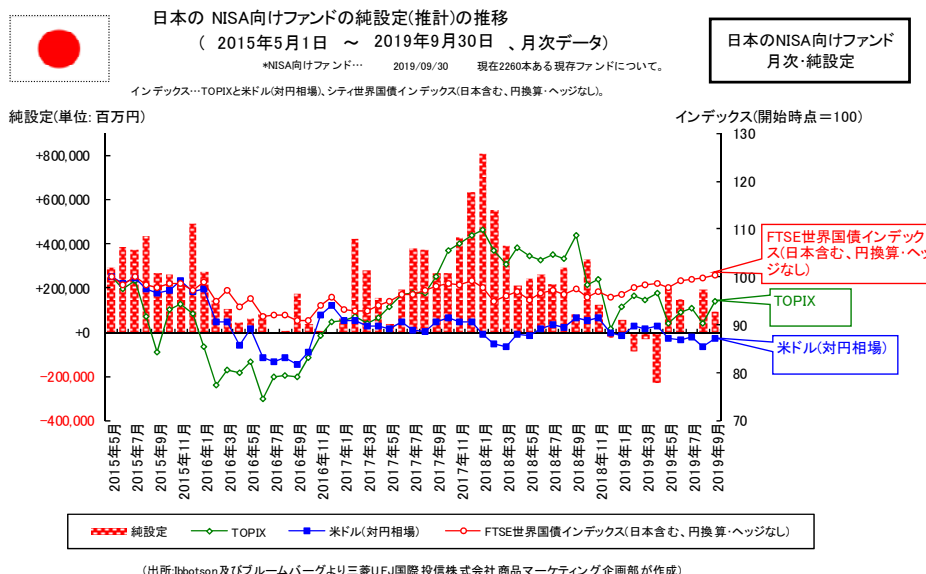


(出所:Ibbotson及びブルームバーグより三菱UFJ国際投信株式会社商品マーケティング企画部が作成)

※1: 主要分類…モーニングスター分類で2018年12月末の純資産の大きい上位5分類である。グローバル株は、2018年11月1日のグローバル分類の変更でグローバル大型株及びグローバル中小型株と分かれた為、グラフでは、従来通りの「グローバル株」として合算する。また、アセットアロケーション型は、「アセットアロケーション慎重型」、「アセットアロケーション柔軟型」、「アセットアロケーション標準型」、「アセットアロケーション積極型」、「アセットアロケーションその他」を合算。不動産セクター株/REIT、公益セクター株、通信株、日本債などは「その他」に含む。

< NISA の投信フロー～新規投資家(NISA 向けファンド)はアセットアロケーションやグローバル株、REITへ >

最後に新規投資家を示す NISA 向けファンドの純設定を見る。最新2019年9月は+915億円と前月8月(+1940億円)から半減も、既存投資家同様、2カ月連続の純流入となった(*NISA 向けファンド…後述※2参照)。



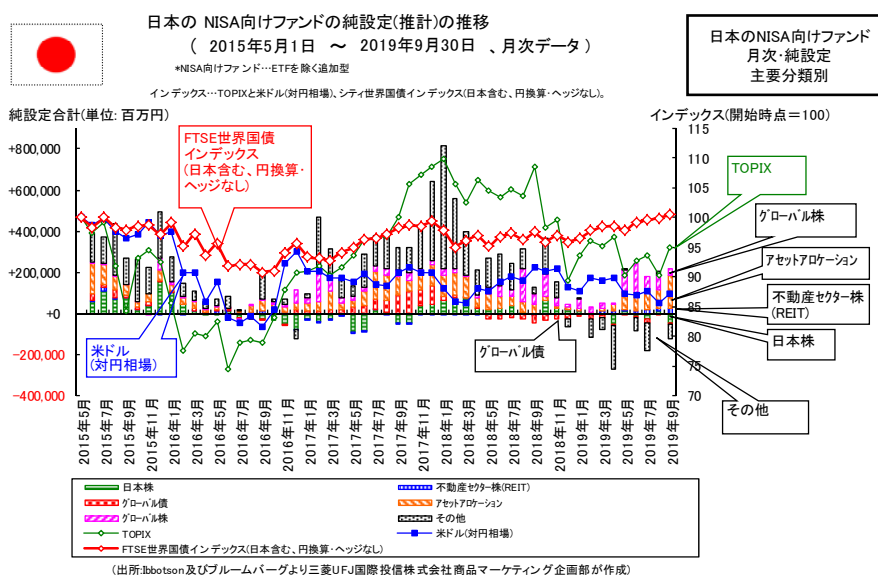
※2: NISA 向けファンド…

投資信託協会の言う「NISA 向けのファンド(*分配頻度が低いファンド、低コストのファンド、バランス型ファンド)」を参考にしながら(URLは後述[参考ホームページ]②参照)、2013年11月末時点の契約型公募投信純資産が1兆円以上ある投信会社17社(全84社の約90%を占める)の株式投信(ETFを含む)で「NISA向け」、「NISA専用」、「NISAで選ぶ」、「NISAにおすすめ」などと紹介されているファンド、それに加え、2013年4月以降に設定された分配頻度が低いファンドやバランス型ファンドとしている。日本証券業協会は「NISA制度の利用者にとって、短期間に金融商品の買換え(乗換え)を行う又は分配金再投資型の公募株式投資信託につき高い頻度で分配金の支払を受けるといった投資手法等はNISA制度を十分に利用できない場合がある」(URLは後述[参考ホームページ]②参照)、投資信託協会は「NISAにおいては一般的に、投資未経験者層、或いは久々に投資を行う層を意識して、比較的风险を抑えた商品」とも言っている(URLは後述[参考ホームページ]②参照)。尚、2013年4月以降と言うのは、NISAが含まれる税制改正(関連)法が2013年3月30日に成立・政省令公布されたため。また、単位型・限定追加型・年1~2回分配以外のファンド・DC・SMA・ミリオン(従業員積立投資プラン)を含めていない。ただ、同じシリーズが該当している場合は年1~2回以外を含めている。しかし、通貨選択型については、年1~2回以外を除いている(*マネー・プールは年1~2回でも除いている)。こうした「NISA向けファンド」を抽出した所、2019年9月30日時点で2260本となった。

2カ月連続の純流入は、アセット・アロケーションのほか、REITやグローバル株に大きい。新規投資家と思われる投信の2019年9月の純設定を、投資対象(主要分類)別に見る。

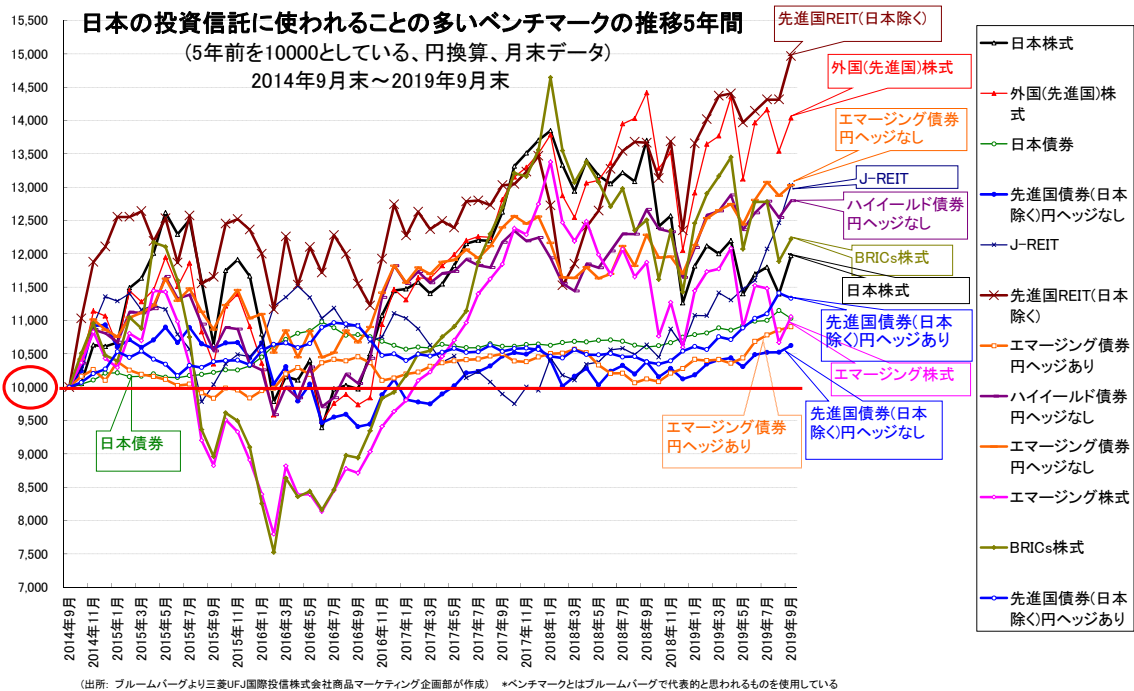
前述した既存投資家と思われる国内投信全体と同じ主要分類を用いると、2019年9月の純設定1位はアセット・アロケーションその他(前月8月2位)、2位はアセット・アロケーション柔軟型(前月8月12位)、3位は多種オルタナティブ(前月8月9位)、4位はグローバル大型株(前月8月1位)、5位は不動産セクター型(6月から4カ月連続5位)となっている(下記グラフで、多種オルタナティブ、不動産セクター型は「その他」に、アセット・アロケーションその他および同柔軟型は「アセットアロケーション型」に含む※1)。

アセットアロケーション型は今年5月～8月にかけて800億円前後の流入が続いていたが、9月は+1658億円と倍増、既存投資家同様、過去4年半で最大の純流入となった(これまでの最大は2015年6月の+1416億円)。2016年末から2018年末頃まで純流出が続いていた不動産セクター型/REITは、2019年に入り、純流入が加速傾向である。9月は+205億円と、過去4年半で最大の純流入となった(←8月+130億円←7月+155億円←6月+129億円←5月75億円←4月+93億円)。

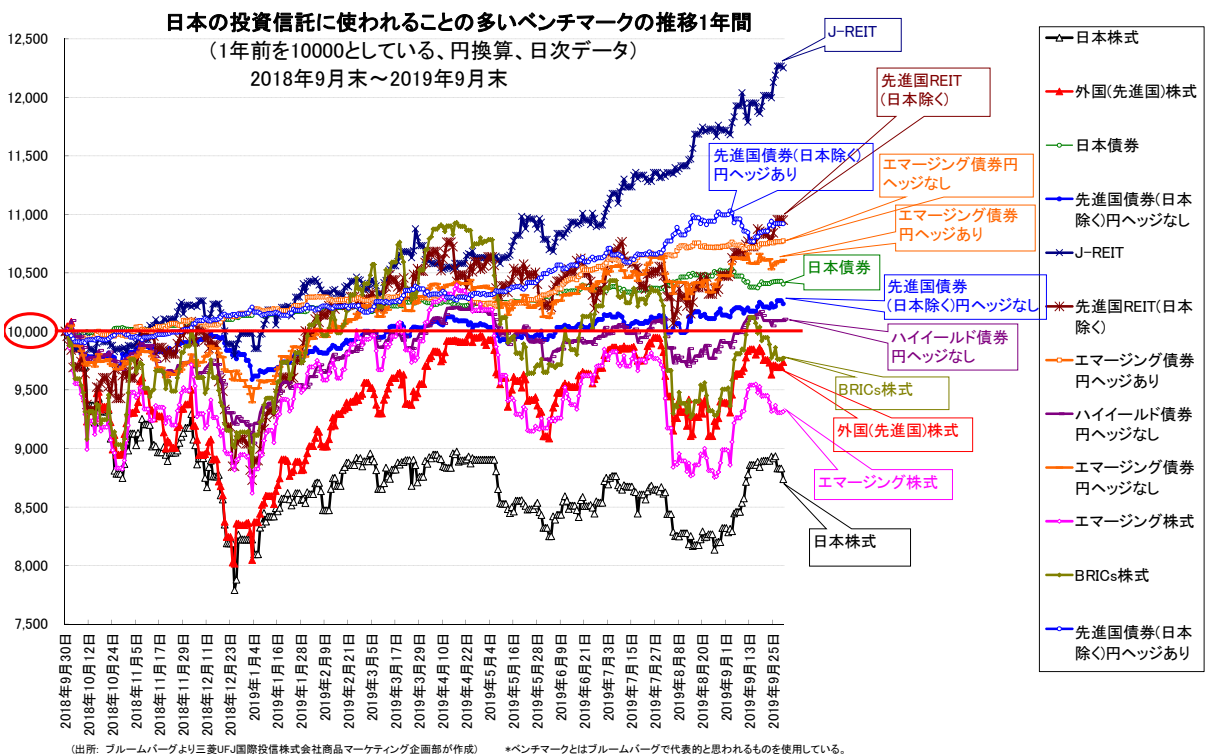


REIT ファンドや、グローバル株ファンドに資金が集まる理由は、パフォーマンスが好調だった事がありそうだ。日本の投信に使われる事の多いベンチマークのパフォーマンス推移を見たのが次頁のグラフである。パフォーマンスの好い順に、先進国 REIT、先進国株式、エマージング債券、J-REIT、ハイイールド債券、BRICs 株式、国内株式などとなっている(*5年前を10000としている、円換算、月末データ)。

先進国株式は2019年4月からの半年で見ると次頁グラフのベンチマークの中で下から6番目、同7月からの3カ月では下から4番目となっているが、3年では最も好く、5年では先進国 REIT に次いで2番目に好いパフォーマンスとなっている。



下記グラフは1年間のパフォーマンスであるが、好い順に、J-REIT、先進国REIT、先進国債券円ヘッジあり、エマーシング債券、国内債券、先進国債券円ヘッジなし等となっている(*グラフは1年前を10000としている、円換算、日次データ)。J-REITは2019年7月からの3カ月や、同4月からの半年、そして1年で見てもいずれも下記グラフのベンチマークの中で最も好いパフォーマンスとなっている。5年では4番目に好いパフォーマンスだった。先進国REITは、2019年7月からの3カ月や1年で、J-REITに次いで好く、5年では最もパフォーマンスが良かった。REITファンドやグローバル株ファンドに資金が集まるのは納得のいく所でもある。



以上、NISAで何が買われたかについて既存投資家、新規投資家、つみたてNISA投資家の順に見てきた。2019年9月の人気は共通してアロケーション型であり、グローバル株は鈍化傾向、REITの人気も見られた。

もちろんこれは今後を示すものではない。だが、こうした情報が「商品が選びにくく種類が多く選択に迷う人」(投資信託協会～URLは後述[参考ホームページ]②参照)が多いと思われるNISA等を検討する投資家にとって、少しでも参考になれば幸いである。

そして、**日本版ISA(NISA)も2020年までに政府目標25兆円を超える事を期待している。**

以 上

[参考ホームページ]

- ①2019年9月26日付金融庁「NISA・ジュニアNISA口座の利用状況に関する調査結果(2019年6月末)」…
「<https://www.fsa.go.jp/policy/nisa/20190926.html>」、
2012年7月31日付内閣官房ホームページ「日本再生戦略～フロンティアを拓き、『共創の国』へ～」…
「https://www.cas.go.jp/jp/tpp/pdf/2012/2/10.20120918_5.pdf」、
2013年2月22日付日本版ISAの道 その4「『日本版ISAの道』は、近い将来『日本版529と日本版ジュニアISAの道』につながり、さらに拡大していく可能性を持つ。『家計からの成長マネーの供給拡大』が達成されていくことを強く期待する。」…「<https://www.am.mufg.jp/text/130222.pdf>」、
2013年4月22日付日本版ISAの道 その9「日本版ISAと高配当株や高分配投信、そして日本版REIT(J-REIT)～J-REITファンドの活用の検討～」…「<https://www.am.mufg.jp/text/130422.pdf>」、
日本の投資信託協会・統計データ「公募不動産投信の月末資産増減状況」…「<https://www.toushin.or.jp/statistics/statistics/data/>」。
- ②金融庁の令和2年度税政改正要望について…「<https://www.fsa.go.jp/news/r1/sonota/19zeikai.pdf>」、
2019年8月13日付日本版ISAの道 その277「NISAのモデルとなったイギリスのISAは今?『ブレッジットISA』も登場した英国のISAは非課税枠が日本の倍近く、補助金付き住宅購入支援ISAもあり! 老後資金で先進国低位の英国だからこそその官民による尽力と進化!!」…「https://www.am.mufg.jp/text/oshirase_190813.pdf」、
金融庁「つみたてNISAの対象商品」…「<https://www.fsa.go.jp/policy/nisa2/about/tsumitate/target/index.html>」、2019年4月26日付日本証券業協会「NISA制度の口座開設及び勧誘並びに販売時等における留意事項について(ガイドライン)」…
「<http://www.jsda.or.jp/anshin/oshirase/files/nisaguideline.pdf>」、
2014年1月8日付投資信託協会メールマガジン「NISA向けのファンドって?」…「<https://www.toushin.or.jp/mailmag/backnumber/>」、
2013年11月21日付投資信託協会「『NISA』の普及・拡大に向けた投資信託商品に関する調査」…
「<http://www.toushin.or.jp/topics/2013/10055/>」、
つみたてNISAの要件は2017年4月24日付日本版ISAの道 その179「積立NISAの適格投信は全体の1%以下でインデックス・ファンドばかり。これを米国に当てはめると、全体の1.6%でアクティブ・ファンドが半分超に!」…
「https://www.am.mufg.jp/text/oshirase_170424.pdf」、
2018年3月7日付投資信託協会「投資信託に関するアンケート調査報告書-2017年」…
「<https://www.toushin.or.jp/statistics/report/research2017/>」。

三菱UFJ国際投信【投信調査コラム】日本版ISAの道 バックナンバー…
「 <https://www.am.mufg.jp/market/report/investigate.html> 」、
「 <https://www.am.mufg.jp/smp/market/report/investigate.html> 」

～Google等で「投信調査コラム」もしくは「日本版ISAの道」と検索～

本資料に関してご留意頂きたい事項

- 当資料は日本版ISA(少額投資非課税制度、愛称「NISA/ニーサ」)に関する考え方や情報提供を目的として、三菱UFJ国際投信が作成したものです。当資料は投資勧誘を目的とするものではありません。
- 当資料中の運用実績等に関するグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮しておりませんので、投資者の皆様の実質的な投資成果を示すものではありません。市況の変動等により、方針通りの運用が行われない場合もあります。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。
- 当資料に示す意見等は、特に断りのない限り当資料作成日現在の筆者の見解です。
- 投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。
- 投資信託は値動きのある有価証券を投資対象としているため、当該資産の価格変動や為替相場の変動等により基準価額は変動します。従って投資元本が保証されているわけではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。
- 投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。
- 投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- クローズド期間のある投資信託は、クローズド期間中は換金の請求を受け付けることができませんのでご留意ください。
- 投資信託は、ご購入時・保有時・ご換金時に手数料等の費用をご負担いただく場合があります。

本資料中で使用している指数について

- ・TOPIX(東証株価指数)に関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。
- ・FTSE世界国債インデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。
- ・「日経平均株価」に関する著作権、知的所有権、その他一切の権利は日本経済新聞社に帰属します。